

**IBM WebSphere Business Integration
Connect Enterprise and
Advanced Editions**



PIP サンプル

**IBM WebSphere Business Integration
Connect Enterprise and
Advanced Editions**



PIP サンプル

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、27ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM WebSphere Business Integration Connect Advanced Edition (5724-E75) および Enterprise Edition (5724-E87) バージョン 4.2.2、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM WebSphere Business Integration Connect Enterprise and
Advanced Editions
PIP Sample

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.7

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

PIP サンプル	1	Business Integration Connect のセットアップ	12
Business Integration Connect PIP サンプル	1	WebSphere MQ のセットアップ	17
サンプルで使用するトポロジ	1	WebSphere Interchange Server のセットアップ	18
シナリオ 1: 2 つのアクション PIP の処理	2	シナリオ 1 の実行	22
シナリオ 2: 0A1 PIP の処理	5	シナリオ 2 の実行	24
シナリオ 3: 添付ファイルのある PIP の処理	6	シナリオ 3 の実行	25
WebSphere Interchange Server の成果物	7	特記事項	27
ビジネス・オブジェクト	7	プログラミング・インターフェース情報	29
コラボレーション・テンプレート	8	商標	29
PIP パーシスタンス・スキーマ	11		
サンプルのセットアップ	12		

PIP サンプル

この文書では、WebSphere Business Integration Connect に付属の PIP サンプルについて説明します。

Business Integration Connect PIP サンプル

Business Integration Connect に付属の PIP サンプルは、WebSphere InterChange Server をバックエンド・アプリケーションとしてインプリメントする場合に、メッセージ交換のために Business Integration Connect および WebSphere Interchange Server をセットアップする方法を示します。また、コミュニティー参加者からメッセージを送受信するときの Business Integration Connect の振る舞いや添付ファイルの処理方法も理解できます。

PIP サンプルでは、3 つのシナリオがサポートされています。第 1 のシナリオでは、Business Integration Connect が 2 つのアクション PIP を処理する方法を説明します。2 番目のシナリオは最初のシナリオの続きで、PIP のキャンセルについて説明します。3 番目のシナリオでは、Business Integration Connect が添付ファイルを持つ 1 つのアクション PIP を処理する方法を説明します。

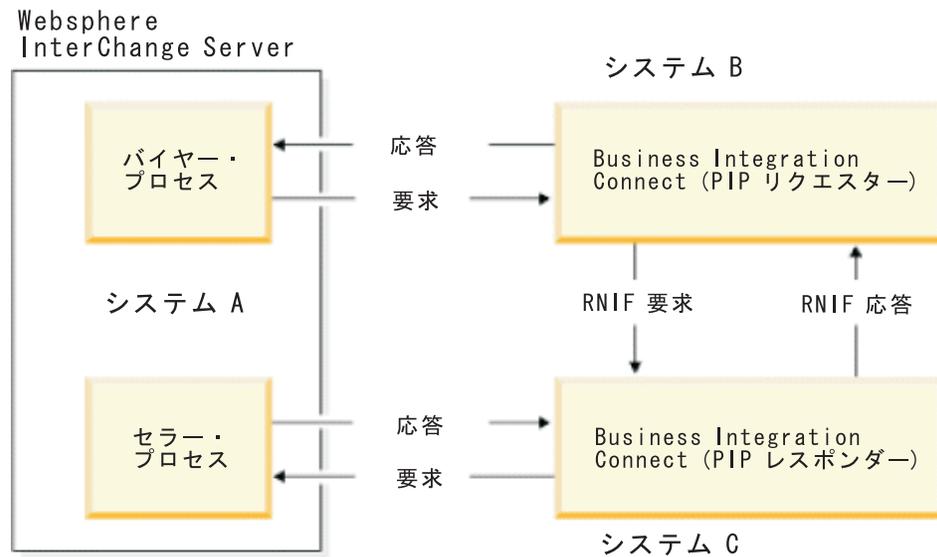
WebSphere InterChange Server についての追加情報は、「*Integration Overview*」を参照してください。

サンプルで使用するトポロジ

シナリオでは、すべて同じトポロジを使用します。システム A には WebSphere InterChange Server が設定され、バックエンド・アプリケーションおよびコミュニティー参加者の役割を果たします。あるプロセス (バイヤー・プロセス) が PIP を開始し、別のプロセス (セラー・プロセス) が PIP を受け取ります。

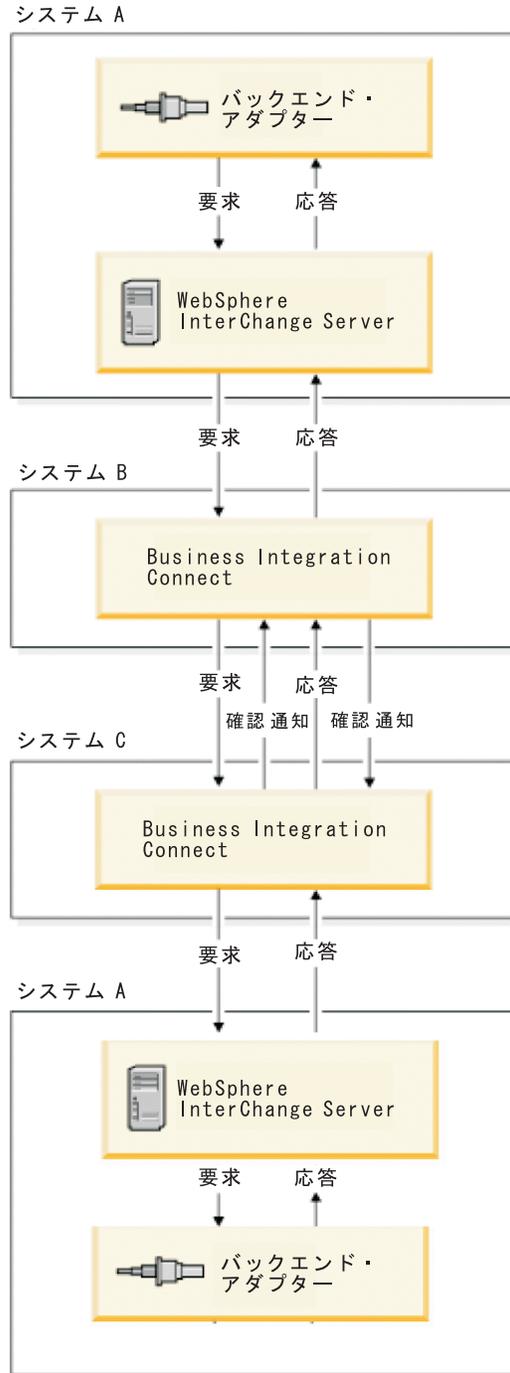
システム B には、PIP リクエスターの役割を果たす Business Integration Connect Enterprise Edition が設定されています。このシステムは、システム A のバイヤー・プロセスから PIP の内容を受け取り、PIP メッセージをシステム C に送信します。システム C には、PIP レスポンダーの役割を果たす Business Integration Connect Enterprise Edition が設定されています。システム C はシステム B から PIP メッセージを受け取り、その内容をシステム A のセラー・プロセスに受け渡します。

以下の図はトポロジーを示します。



シナリオ 1: 2 つのアクション PIP の処理

シナリオ 1 では、Business Integration Connect が送信側と受信側として 2 つのアクション PIP を処理する方法について説明します。以下の図は、このシナリオにおけるシステム間の PIP メッセージまたは PIP の内容メッセージのフローを示します。



シナリオは、バックエンド・アダプターに接続されたポートから 3A4 要求ビジネス・オブジェクトを受け取る、WebSphere InterChange Server のバイヤー・プロセスから開始します。バイヤー・プロセスは 3A4 要求メッセージを作成し、メッセージの Backend Integration ヘッダーに固有の ID (x_aux_process_instance_id と x_aux_system_msg_id) を設定します。バイヤー・プロセスは、これらの ID を要求メッセージの状況とともに保持します。

バイヤー・プロセスは、バイヤーのゲートウェイとして構成されている Business Integration Connect インスタンスに JMS で要求を送信します。これはシステム B

にあるインスタンスです。このインスタンスは、RNIF 2.0 対応の 3A4 PIP を生成し、それをセラーのゲートウェイに送信します。このゲートウェイは、システム C にある Business Integration Connect インスタンスです。セラーの Business Integration Connect は RNIF 要求メッセージを受け取り、それを検証してバイヤーのゲートウェイに確認通知シグナルを送信します。バイヤーの Business Integration Connect は、statusCode 100 の EventNotification メッセージを WebSphere InterChange Server のバイヤー・プロセスに送信します。バイヤー・プロセスは、PIP トランザクションの状況を更新します。

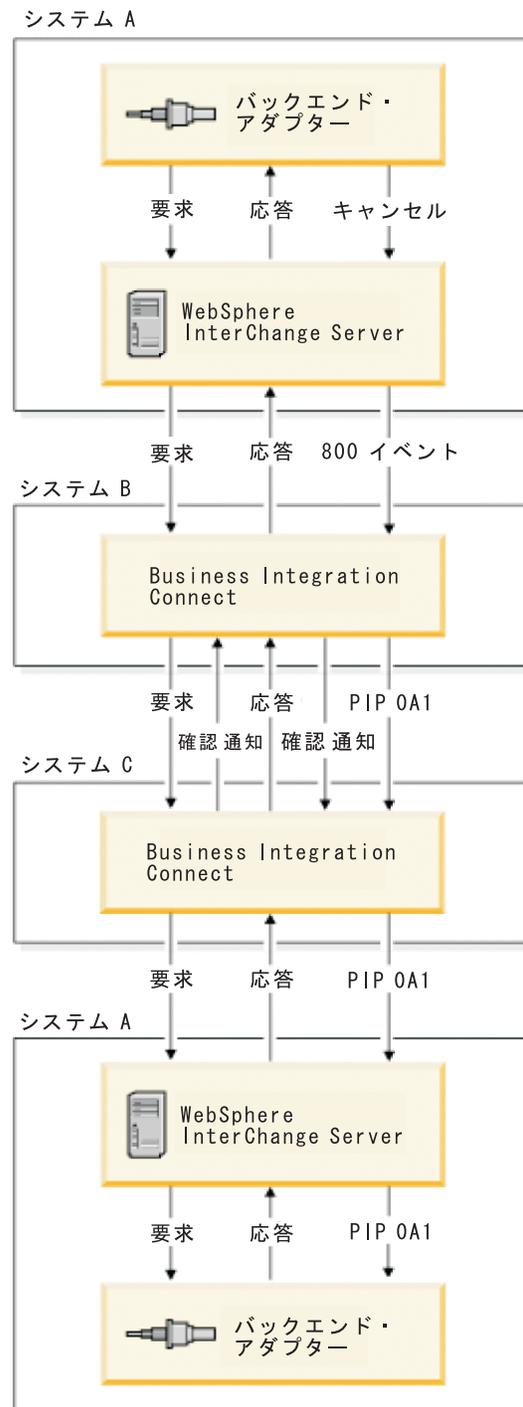
セラーの Business Integration Connect は、3A4 の内容を Backend Integration パッケージにパッケージして、このメッセージを WebSphere InterChange Server で実行中のセラー・プロセスに送信します。セラー・プロセスは、Backend Integration パッケージ内の ID を保管し、バックエンド・アダプターに接続されているポートに要求を送信します。

バックエンド・アダプターは、PIP 3A4 応答メッセージを非同期的にセラー・プロセスに送信します。セラー・プロセスはデータベースから固有の ID (x_aux_process_instance_id と x_aux_system_msg_id) を検索し、それらの ID を持つ応答メッセージを取り込みます。セラーは応答メッセージをセラーの Business Integration Connect に送信し、Business Integration Connect はその応答を RNIF 形式にパッケージして、バイヤーのゲートウェイに送信します。

バイヤーの Business Integration Connect は応答を検証し、確認通知をセラーのゲートウェイに送信します。ゲートウェイは、statusCode 100 のイベント通知メッセージを WebSphere InterChange Server のセラー・プロセスに送信します。バイヤーの Business Integration Connect は、PIP 3A4 応答メッセージを非同期的に WebSphere InterChange Server のバイヤー・プロセスに送信します。バイヤー・プロセスは、PIP トランザクションの状況を更新し、バックエンド・アダプターに接続されているポートに応答メッセージを送信します。

シナリオ 2: 0A1 PIP の処理

シナリオ 2 はシナリオ 1 の続きです。以下の図は、シナリオ 1 のメッセージングと、PIP のキャンセルに使用するメッセージングであるシナリオ 2 を示します。



バイヤー・プロセスは、バックエンド・アダプターに接続されているポートに**応答**メッセージを送信した後、バイヤー・プロセスのバックエンドから**キャンセル**・イベントを受け取ります。バイヤー・プロセスは、PIP トランザクションの状況を**800** に更新します。次に、バイヤー・プロセスは以下の情報を持つイベント通知メ

ッセージを取り込みます。

表 1. シナリオ 2 のイベント通知フィールド値

フィールド	値
StatusMessage	3A4 PIP 要求を送信したアプリケーションが要求をキャンセルしたことを示すテキスト
StatusCode	イベント通知メッセージが PIP をキャンセルすることを示す「800」
EventMessageID	このイベント通知メッセージの ID
BusinessObjectID	キャンセルする PIP 要求の ID。これは、メッセージ・メタデータの保管に使用するデータベース・テーブルの Documentid 列の値です。
GlobalMessageID	PIP 要求メッセージの ID。これは、メッセージ・メタデータの保管に使用するデータベース・テーブルの Msgid 列の値です。

次に、バイヤー・プロセスはイベント通知メッセージをゲートウェイに送信します。バイヤーの Business Integration Connect インスタンスがイベント通知メッセージを受け取り、そのメッセージを基に 0A1 PIP を生成します。インスタンスは、0A1 PIP をセラーのゲートウェイに送信します。セラーの Business Integration Connect インスタンスが PIP 0A1 メッセージを受け取り、それを処理のためにセラーに送信します。

シナリオ 3: 添付ファイルのある PIP の処理

シナリオ 3 では、Business Integration Connect が添付ファイル付きの PIP を処理する方法を説明します。バイヤー・プロセスのバックエンド・アダプターから要求メッセージが到着するとき、添付ファイルが含まれることがあります。添付ファイルは、WebSphere InterChange Server がパススルーするファイルである場合や、WebSphere InterChange Server ビジネス・オブジェクトの XML 表現である場合があります。このシナリオでは、それぞれのタイプの添付ファイルの例を示します。ファイル添付の場合、WebSphere InterChange Server はファイルを読み取り、Base64 エンコードを行います。次に、WebSphere Interchange Server は、エンコードされた添付ファイルの内容を、以下の図の行 5.1.1 に示す defaultAttachment として保管します。

General		Attributes								
	Pos	Name	Type	Key	Foreign	Required	Card	Maximum Length	Default	
1	1	XMLDeclaration	String	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		255	xml	
2	2	DocType	String	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		255	DOCTYPE	
3	3	ROOT	BCG_ROOT_Pip3A4PurchaseOrderRequest	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1			
4	4	contentTypeEncoding	BCG_ContentTypeEncoding	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1			
5	5	attachments	BCG_AttachmentContainer	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1			
5.1	5.1	defaultAttachment	BCG_Default_Attachment	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	N			
5.1.1	5.1.1	attachment	String	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		255		
5.1.2	5.1.2	contentTypeEncoding	BCG_ContentTypeEncoding	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1			
5.1.3	5.1.3	ObjectEventId	String							
5.2	5.2	attachmentOne	BCG_Person	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	N			
5.2.1	5.2.1	FirstName	String	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		255		
5.2.2	5.2.2	LastName	String	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		255		
5.2.3	5.2.3	AddressOne	String	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		255		
5.2.4	5.2.4	AddressTwo	String	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		255		
5.2.5	5.2.5	City	String	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		255		
5.2.6	5.2.6	State	String	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		255		
5.2.7	5.2.7	Country	String	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		255		
5.2.8	5.2.8	ZipCode	String	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		255		
5.2.9	5.2.9	ObjectEventId	String							
5.3	5.3	ObjectEventId	String							

ビジネス・オブジェクトの添付の場合、WebSphere InterChange Server は、未変更のまま上記の図の attachmentOne として保管します。

バイヤー・プロセスは、要求を添付ファイルとともにバイヤーのゲートウェイに送信します。バイヤーの Business Integration Connect インスタンスは PIP を生成し (添付ファイルを含む)、それをセラーのゲートウェイに送信します。セラーの Business Integration Connect インスタンスは、要求とその添付ファイルをセラーの WebSphere InterChange Server に送信します。セラーの WebSphere InterChange Server では、添付データ・ハンドラーが BCG_Persons 添付ファイルをビジネス・オブジェクトに変換します。

セラー・プロセスは defaultAttachment を検索し、添付ファイルをデコードし、添付ファイル・ディレクトリーに保管します。バックエンド・アダプターへのメッセージを組み立てるとき、セラー・プロセスは添付ファイルの内容を添付ファイル・ディレクトリー内のファイルへのパスに置き換えます。セラー・プロセスは、BCG_Persons ビジネス・オブジェクトには変更を行いません。次に、セラーはバックエンド・アダプターに接続されたポートに要求メッセージを送信します。バックエンド・アプリケーションは、必要に応じてファイル・パスを使用して添付ファイルを検索します。

WebSphere Interchange Server の成果物

PIP サンプルは、このセクションに示すビジネス・オブジェクト、コラボレーション・テンプレート、およびパーシスタンス・スキーマを使用して、シナリオをサポートします。

ビジネス・オブジェクト

PIP サンプルは、以下のビジネス・オブジェクトを使用します。

- **BCG_Pip3A4PurchaseOrderRequest:** シナリオ 1 と 2 の 3A4 PIP 要求メッセージ。サンプルでは、BO Designer を使用して JMSDynMO を組み込むよう変更されています。ペイロード部分は、XML ODA および PIP 用 DTD を使用して生成されています。
- **BCG_Pip3A4PurchaseOrderResponse:** シナリオ 1 と 2 の 3A4 PIP 応答メッセージ。サンプルでは、BO Designer を使用して JMSDynMO を組み込むよう変更されています。ペイロード部分は、XML ODA および PIP 用 DTD を使用して生成されています。
- **BCG_Pip3C3InvoiceNotification:** シナリオ 3 の 3C3 PIP 要求メッセージ。サンプルでは、BO Designer を使用して JMSDynMO を組み込むよう変更されています。ペイロード部分は、XML ODA および PIP 用 DTD を使用して生成されています。
- **BCG_Pip0A1FailureNotification:** シナリオ 2 の 0A1 PIP 通知メッセージ。サンプルでは、BO Designer を使用して JMSDynMO を組み込むよう変更されています。ペイロード部分は、XML ODA および PIP 用 DTD を使用して生成されています。
- **BCG_EventNotification:** WebSphere InterChange Server と Business Integration Connect との間で送信されるイベント通知メッセージ。JMSDynMO が組み込まれますが、添付ファイルは含まれません。
- **BCG_AttachmentContainer:** 添付用のトップレベルのビジネス・オブジェクト。WebSphere InterChange Server データ・ハンドラーが添付ファイルに変換可能な子ビジネス・オブジェクトが含まれる場合があります。
- **JMS_DynMO:** JMS の動的メタオブジェクト。このビジネス・オブジェクトについての詳細は、「*Integration Overview*」を参照してください。

コラボレーション・テンプレート

PIP サンプルは、以下のコラボレーション・テンプレートを使用します。

- **BCG_PIP3A4_Request:** パイヤー・プロセスを表します。一方の終端はパイヤーのバックエンド・システムに接続され、もう一方の終端は WebSphere BI アダプターを介して Business Integration Connect に接続されます。

このコラボレーション・テンプレートには以下のポートがあります。

表 2. BCG_PIP3A4_Request ポート

PortName	BusinessObject	説明
RequestFromBackend	BCG_Pip3A4PurchaseOrderRequest	バックエンドから要求を受け取る
RequestToWBIC	BCG_Pip3A4PurchaseOrderRequest	Business Integration Connect に要求を送信する
EventFromBackend	BCG_EventNotification	バックエンドから PIP キャンセル要求を受け取る

表 2. BCG_PIP3A4_Request ポート (続き)

EventToWBIC	BCG_EventNotification	Business Integration Connect に PIP キャンセル・イベントを送信する
ResponseFromWBIC	BCG_Pip3A4PurchaseOrderConfirmation	Business Integration Connect から応答を受け取る
ResponseToBackend	BCG_Pip3A4PurchaseOrderConfirmation	バックエンドに応答を送信する

構成プロパティ

1. DB_CONN_POOL_NAME
デフォルト値 = CWLDPool
 2. ATTACHMENT_FILE_DIR
デフォルト値 = C:\temp
- **BCG_PIP3A4_Response:** セラー・プロセスを表します。一方の終端はセラーのバックエンド・システムに接続され、もう一方の終端は WebSphere BI アダプターを介して Business Integration Connect に接続されます。

このコラボレーション・テンプレートには以下のポートがあります。

表 3. BCG_PIP3A4_Response ポート

PortName	BusinessObject	説明
RequestFromWBIC	BCG_Pip3A4PurchaseOrderRequest	Business Integration Connect から要求を受け取る
RequestToBackend	BCG_Pip3A4PurchaseOrderRequest	バックエンドに要求を送信する
EventFromBackend	BCG_EventNotification	バックエンドから PIP キャンセル・イベントを受け取る
EventFromWBIC	BCG_EventNotification	Business Integration Connect から PIP 確認通知イベントを受け取る
ResponseFromBackend	BCG_Pip3A4PurchaseOrderConfirmation	バックエンドから応答を受け取る
ResponseToWBIC	BCG_Pip3A4PurchaseOrderConfirmation	Business Integration Connect に応答を送信する

構成プロパティ

1. DB_CONN_POOL_NAME
デフォルト値 = CWLDPool1
2. ATTACHMENT_FILE_DIR
デフォルト値 = C:\temp

- **BCG_PIP3C3_Notifier:** ノーティファイヤー・プロセスを表します。一方の終端はノーティファイヤーのバックエンド・システムに接続され、もう一方の終端は WebSphere BI アダプターを介して Business Integration Connect に接続されます。

このコラボレーション・テンプレートには以下のポートがあります。

表 4. BCG_PIP3C3_Notifier ポート

PortName	BusinessObject	説明
RequestFromBackend	BCG_Pip3C3InvoiceNotification	バックエンドから通知を受け取る
RequestToWBIC	BCG_Pip3C3InvoiceNotification	Business Integration Connect に通知を送信する
EventToWBIC	BCG_EventNotification	Business Integration Connect から PIP 確認通知イベントを受け取る
EventFromBackEnd	BCG_EventNotification	バックエンドから PIP キャンセル・イベントを受け取る

構成プロパティ

1. DB_CONN_POOL_NAME
デフォルト値 = CWLDPool
2. ATTACHMENT_FILE_DIR
デフォルト値 = C:%temp

- **BCG_PIP3C3_Receiver:** 受信側プロセスを表します。一方の終端は受信側のバックエンド・システムに接続され、もう一方の終端は WebSphere BI アダプターを介して Business Integration Connect に接続されます。

このコラボレーション・テンプレートには以下のポートがあります。

表 5. BCG_PIP3C3_Receiver ポート

PortName	BusinessObject	説明
RequestFromWBIC	BCG_Pip3C3InvoiceNotification	Business Integration Connect から要求を受け取る
RequestToBackend	BCG_Pip3C3InvoiceNotification	バックエンドに要求を送信する
EventFromBackEnd	BCG_EventNotification	バックエンドから PIP キャンセル・イベントを受け取る
EventFromWBIC	BCG_EventNotification	Business Integration Connect から PIP 確認通知イベントを受け取る

構成プロパティ

1. DB_CONN_POOL_NAME
デフォルト値 = CWLDPool1
2. ATTACHMENT_FILE_DIR
デフォルト値 = C:%temp

- **BCG_0A1FailureNotification:** FailureNotification プロセスを表します。一方の終端は受信側のバックエンド・システムに接続され、もう一方の終端は WebSphere BI アダプターを介して Business Integration Connect に接続されます。

このコラボレーション・テンプレートには以下のポートがあります。

表 6. BCG_0A1FailureNotification

PortName	BusinessObject	説明
NOFFromWBIC	BCG_Pip0A1FailureNotification	Business Integration Connect から PIP 0A1 を受け取る
NOFToBackend	BCG_Pip0A1FailureNotification	バックエンドに PIP 0A1 を送信する
EventFromWBIC	BCG_EventNotification	Business Integration Connect から PIP 確認通知イベントを受け取る
EventToBackEnd	BCG_EventNotification	バックエンドに確認通知イベントを送信する

構成プロパティー

DB_CONN_POOL_NAME

デフォルト値 = CWLDPool

PIP パーススタンス・スキーマ

PIP サンプルは、データベース・テーブルを使用して PIP メッセージの ID と状況を保持します。以下の表に、データベース・テーブルのスキーマを示します。

表 7. PIP メッセージ・パーススタンス・スキーマ

列	対応する JMSProperties 属性	説明
SenderId	x-aux-sender-id	PIP のイニシエーターの ID
Receiverid	x-aux-receiver-id	PIP の宛先の ID
Documentid	x-aux-msg-id	PIP を開始するプロセスによって割り当てられるメッセージの ID
PIPInstanceid	x-aux-process-instance-id	メッセージが属する PIP の ID
Msgid	x-aux-system-msg-id	PIP メッセージを送信するシステムによって割り当てられるメッセージの ID
Status	x_aux_event_status_code	PIP の状態: 0 - 開始済み、100 - ACK の受信、800 - バックエンドにより PIP の終了済み、900 - 例外の受信
DocType	なし	メッセージのタイプ: REQ - 要求メッセージ、RESP - 応答メッセージ、NOTI - 通知メッセージ、0A1 - 障害通知メッセージ

サンプルのセットアップ

サンプルのセットアップ作業には、Business Integration Connect、WebSphere MQ、および WebSphere InterChange Server のセットアップが含まれます。以降のセクションでは、その方法について説明します。

Business Integration Connect のセットアップ

以下の手順は、Business Integration Connect をセットアップして、PIP サンプルのすべてのシナリオを実行するために必要な設定およびリソースを準備する方法を示しています。システム B および C のセットアップは、注記がないかぎり同じです。

1. Business Integration Connect を始動し、ハブ管理者としてコミュニティー・コンソールにログインします。
2. Business Integration Connect を表すコミュニティー・マネージャー・プロファイルと、他のシステム用のコミュニティー参加者プロファイルを作成します。例えば、システム B で、システム C 用のコミュニティー参加者プロファイルを作成します。プロファイルの作成についての詳細は、「*Administrator Guide*」を参照してください。
3. プロファイルのゲートウェイを作成します。

ゲートウェイの作成についての詳細は、「*Administrator guide*」を参照してください。

- a. 「アカウント管理 (Account Admin)」 > 「プロファイル」 > 「コミュニティー参加者 (Community Participant)」をクリックします。
- b. 作成したコミュニティー・マネージャー・プロファイルを検索します。
- c. プロファイルを選択し、「ゲートウェイ (Gateways)」をクリックします。
- d. 「ゲートウェイ・リスト (Gateway List)」セクションで、「作成」をクリックします。
- e. 「ゲートウェイの詳細 (Gateway Detail)」セクションで、以下の値を入力または選択します。

他のすべてのパラメーターにはデフォルト値を使用します。

表 8. コミュニティー・マネージャーのゲートウェイ値

パラメーター	入力または選択する値
Gateway name	ゲートウェイの名前を入力する
Transport	JMS
Target URI	コンテキスト URL (file://export/jndi/myctx など) を入力する
JMS Factory Name	JMS ファクトリーの名前を入力する 例: myqcf
JMS Queue Name	JMS キューの名前を入力する 例: SENDERQ
JMS JNDI Factory Name	JMS 用 JNDI ファクトリーの名前を入力する 例: com.sun.jndi.fscontext.ReffSContextFactory
JMS Message Class	JMS メッセージ・クラスを入力する (例: TextMessage)

注: WebSphere MQ 5.3 と JMS を使用したバックエンド構成についての詳細は、「*Integration Overview*」ガイドを参照してください。

- f. 「保管」をクリックします。
- g. 同様に、コミュニティー参加者のゲートウェイを作成します。ただし、「ゲートウェイの詳細 (Gateway Detail)」セクションに以下の値を使用します。

表9. コミュニティー参加者のゲートウェイ値

パラメーター	入力または選択する値
Gateway name	ゲートウェイの名前を入力する
Transport	HTTP/1.1
Target URI	他の Business Integration Connect システムの URL を入力する。つまり、システム B を作成している場合は、システム C の URL を入力します。例: http://<IPAddress of System C:57080>/bcgreceiver/submit/test

その他のパラメーターにはデフォルト値を使用します。

- h. 「保管」をクリックします。
4. ゲートウェイをデフォルト・ゲートウェイとして設定します。
 - a. 「アカウント管理 (Account Admin)」 > 「プロファイル」 > 「コミュニティー参加者 (Community Participant)」をクリックします。
 - b. 作成したコミュニティー・マネージャー・プロファイルを検索します。
 - c. プロファイルを選択し、「ゲートウェイ (Gateways)」をクリックします。
 - d. 「ゲートウェイ・リスト (Gateway List)」セクションで、「デフォルト・ゲートウェイの表示 (View Default Gateways)」をクリックします。
 - e. すべてのゲートウェイ・タイプについて、作成したゲートウェイを選択します。
 - f. 同様にして、コミュニティー参加者プロファイルにデフォルト・ゲートウェイを設定します。
5. 以下の PIP 文書フロー・パッケージをアップロードします。
 - Package_RNIF_V02.00.zip
 - Package_RNSC_1.0_RNIF_V02.00.zip
 - BCG_Package_RNIFV02.00_3A4V02.02.zip
 - BCG_Package_RNIFV02.00_3C3V01.01.zip
 - BCG_Package_RNIFV02.00_0A1V02.00.zip
 - BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3A4V02.02.zip
 - BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_3C3V01.01.zip
 - BCG_Package_RNSC1.0_RNIFV02.00_0A1V02.00.zip

パッケージのアップロードについての詳細は、「*Administrator Guide*」の『Uploading packages』を参照してください。他の RNIF バージョンのパッケージまたは別のバージョンの PIP が既にロードされている場合は、Overwrite Data パラメーターを「Yes」に設定します。

パッケージがアップロードされたことを確認するには、「**ハブ管理 (Hub Admin)**」 > 「**ハブ構成 (Hub Configuration)**」 > 「**文書フロー定義 (Document Flow Definition)**」をクリックします。「すべて」をクリックし、RNIF (V02.00) および Backend Integration パッケージから以下の文書フローを探します。

- Document Flow: 3A4 (V02.02)
- Document Flow: 3C3 (V01.01)
- Document Flow: 0A1 (V02.00)

6. PIP の対話を作成します。

- 「**ハブ管理 (Hub Admin)**」 > 「**ハブ構成 (Hub Configuration)**」 > 「**文書フロー定義 (Document Flow Definition)**」をクリックします。
- 「**文書フロー定義の管理 (Manage Document Flow Definitions)**」画面で、「**対話の管理 (Manage Interactions)**」をクリックします。
- 「**対話の管理 (Manage Interactions)**」画面で、「**対話の作成 (Create Interaction)**」をクリックします。
- ソース・ツリーとターゲット・ツリーで「すべて」をクリックして、文書フロー定義ツリーを展開します。
- ソース・ツリーで、以下のコンテキスト内の「**Action: Purchase Order Request Action**」のラジオ・ボタンを選択します。

```
Package: RNIF (V02.00)
  Protocol: RosettaNet (V02.00)
    Document Flow: 3A4 (V02.02) "Request Purchase Order"
      Activity: Request Purchase Order
```

- ターゲット・ツリーで、以下のコンテキスト内の「**Action: Purchase Order Request Action**」のラジオ・ボタンを選択します。

```
Package: Backend Integration (1.0)
  Protocol: RNSC (1.0)
    Document Flow: 3A4 (V02.02) "Request Purchase Order"
      Activity: Request Purchase Order
```

- 「アクション」フィールドで、「**RosettaNet および RosettaNet Service Content の検証付き双方向変換 (Bi-directional Translation of RosettaNet and RosettaNet Service Content with Validation)**」を選択します。
- 「**保管**」をクリックします。
- a から h のステップを繰り返して、もう一方の方向の対話を作成します。つまり、ターゲットを RNIF パッケージに、ソースを Backend Integration パッケージにします。
- a から i のステップを繰り返して、以下のアクションの対話を作成します。
 - 3A4 Purchase Order Confirmation Action
 - 3C3 Invoice Notification Action
 - 0A1 Failure Notification Action

7. XMLEvent の対話を作成します。

- 「**ハブ管理 (Hub Admin)**」 > 「**ハブ構成 (Hub Configuration)**」 > 「**文書フロー定義 (Document Flow Definition)**」をクリックします。

- b. 「文書フロー定義の管理 (Manage Document Flow Definitions)」画面で、「対話の管理 (**Manage Interactions**)」をクリックします。
 - c. 「対話の管理 (Manage Interactions)」画面で、「対話の作成 (**Create Interaction**)」をクリックします。
 - d. ソース・ツリーとターゲット・ツリーで「すべて」をクリックして、文書フロー定義ツリーを展開します。
 - e. ソース・ツリーで、以下のコンテキスト内の「**Document Flow: XMLEvent (1.0)**」のラジオ・ボタンを選択します。
Package: Backend Integration (1.0)
Protocol: XMLEvent (1.0)
 - f. ターゲット・ツリーで、以下のコンテキスト内の「**Document Flow: XMLEvent (1.0)**」のラジオ・ボタンを選択します。
Package: Backend Integration (1.0)
Protocol: XMLEvent (1.0)
 - g. 「アクション」フィールドで、「パススルー (**Pass Through**)」を選択します。
 - h. 「保管」をクリックします。
8. XMLEvent の 0A1 RNSC への対話を作成します。
- a. 「ハブ管理 (**Hub Admin**)」 > 「ハブ構成 (**Hub Configuration**)」 > 「文書フロー定義 (**Document Flow Definition**)」をクリックします。
 - b. 「文書フロー定義の管理 (Manage Document Flow Definitions)」画面で、「対話の管理 (**Manage Interactions**)」をクリックします。
 - c. 「有効な文書フロー対話 (Valid Document Flow Interactions)」画面で、「対話の作成 (**Create Interaction**)」をクリックします。
 - d. ソース・ツリーとターゲット・ツリーで「すべて」をクリックして、文書フロー定義ツリーを展開します。
 - e. ソース・ツリーで、以下のコンテキスト内の「**Document Flow: XMLEvent (1.0)**」のラジオ・ボタンを選択します。
Package: Backend Integration (1.0)
Protocol: XMLEvent (1.0)
 - f. ターゲット・ツリーで、以下のコンテキスト内の「**Action: Failure Notification Action**」のラジオ・ボタンを選択します。
Package: Backend Integration (1.0)
Protocol: RNSC (1.0)
Document Flow: 0A1 (V02.00) "Notification of Failure"
Activity: Distribute Notification of Failure
 - g. 「アクション」フィールドで、「**RosettaNet および XML の検証付き双方向変換 (Bi-directional Translation of RosettaNet and xml with Validation)**」を選択します。
 - h. 「保管」をクリックします。
9. トランSPORT・プロトコルのターゲットを作成します。
- a. 「ハブ管理 (**Hub Admin**)」 > 「ハブ構成 (**Hub Configuration**)」 > 「ターゲット (**Targets**)」をクリックします。
 - b. 「作成」をクリックします。
 - c. 「ターゲット名 (Target Name)」フィールドに名前を入力します。

- d. 「トランスポート (Transport)」フィールドで、HTTP/S を選択します。
- e. 「ターゲット構成 (Target Configuration)」セクションで、HTTP メッセージを処理する受信側の URI を入力します (/bcgreceiver/Receiver など)。
- f. 適切なゲートウェイ・タイプを選択します (例: Production)。
- g. 「保管」をクリックします。
- h. 「ハブ管理 (Hub Admin)」 > 「ハブ構成 (Hub Configuration)」 > 「ターゲット (Targets)」をクリックします。
- i. 「作成」をクリックします。
- j. 「ターゲット名 (Target Name)」フィールドに名前を入力します。
- k. 「トランスポート (Transport)」フィールドで、JMS を選択します。
- l. 「ターゲット構成 (Target Configuration)」セクションで、以下のフィールドに適切な値を入力します。
 - 「JMS プロバイダー URL (JMS Provider URL)」
例: file:///export/jndi/myctx
 - 「JMS キュー名 (JMS Queue Name)」
例: RECEIVERQ
 - 「JMS ファクトリー名 (JMS Factory Name)」
例: myqcf
 - 「JNDI ファクトリー名 (JNDI Factory Name)」
例: com.sun.jndi.fscontext.RefFSContextFactory

注: WebSphere MQ 5.3 と JMS を使用したバックエンド構成についての詳細は、「*Integration Overview*」ガイドを参照してください。
- m. 適切なゲートウェイ・タイプを選択します (例: Production)。
- n. 「保管」をクリックします。
10. セキュリティーの使用可能化についての詳細は、「Administrator's Guide」を参照してください。
11. プロファイルの B2B 機能を使用可能にします。
 - a. 「アカウント管理 (Account Admin)」 > 「プロファイル」 > 「コミュニティー参加者 (Community Participant)」をクリックします。
 - b. 作成したコミュニティー・マネージャー・プロファイルを検索します。
 - c. プロファイルを選択し、「B2B 機能 (B2B Capabilities)」をクリックします。
 - d. 「すべて」をクリックして、文書フロー定義ツリーを展開します。
 - e. コミュニティー・マネージャーで、RNIF (V02.00) および Backend Integration (1.0) パッケージに対する B2B 機能が使用可能になっているかどうかを確認します。パッケージが非アクティブである (使用可能でも使用不可でもない) 場合は、「ソースの設定 (Set Source)」列および「ターゲットの設定 (Set Target)」列内のアイコンをクリックして、それらのパッケージをアクティブにします。
 - f. RNIF (V02.00) パッケージの下の RosettaNet (V02.00) プロトコルと、Backend Integration (1.0) パッケージの下の XMLEvent (1.0) プロトコルと RNSC (1.0) プロトコルに対して、前のステップを繰り返します。以下の文書フローに対して同じステップを実行します。

- Protocol: XMLEvent (1.0) の下の Document Flow: XMLEvent (1.0)
 - Protocol: RNSC (1.0) の下の Document Flow: 3A4 (V02.02)
 - Protocol: RNSC (1.0) の下の Document Flow: 3C3 (V01.01)
 - Protocol: RNSC (1.0) の下の Document Flow: 0A1 (V02.00)
 - Protocol: RosettaNet (V02.00) の下の Document Flow: 3A4 (V02.02)
 - Protocol: RosettaNet (V02.00) の下の Document Flow: 3C3 (V01.01)
 - Protocol: RosettaNet (V02.00) の下の Document Flow: 0A1 (V02.00)
- g. コミュニティー参加者プロフィールに対して、a から f を繰り返します。
12. 参加者接続を作成します。
- a. 「アカウント管理 (Account Admin)」 > 「参加者接続 (Participant Connections)」をクリックします。
 - b. ソースで、コミュニティー・マネージャー・プロフィールを選択します。
 - c. ターゲットで、コミュニティー参加者プロフィールを選択します。
 - d. 「検索 (Search)」をクリックします。
 - e. 以下の対話に対して「アクティブ化」をクリックします。

表 10.

ソース	ターゲット
Package: Backend Integration (1.0) Protocol: XMLEvent (1.0) Document Flow: XMLEvent (1.0)	Package: Backend Integration (1.0) Protocol: RNSC (1.0) Document Flow: 0A1 (V02.00) Activity: Distribute Notification of Failure (N/A)

- f. 画面上のその他のすべての対話を使用可能にします。
- g. ソースで、コミュニティー参加者プロフィールを選択します。
- h. ターゲットで、コミュニティー・マネージャー・プロフィールを選択します。
- i. 「検索 (Search)」をクリックします。
- j. 以下の対話に対して「アクティブ化」をクリックします。

表 11.

ソース	ターゲット
Package: Backend Integration (1.0) Protocol: XMLEvent (1.0) Document Flow: XMLEvent (1.0)	Package: Backend Integration (1.0) Protocol: XMLEvent (1.0) Document Flow: XMLEvent (1.0)

- k. 画面上のその他のすべての対話を使用可能にします。

WebSphere MQ のセットアップ

WebSphere MQ を設定してサンプルをサポートするには、キュー・マネージャーで以下のキューを作成します。

- CWLD_Unsubscribed
- CWLD_InProgress
- CWLD_Result

- CWLD_Error
- JMS コネクターが着信メッセージをポーリングする入力キュー
- JMS コネクターがアウトバウンド・メッセージをポーリングする出力キュー

キューの作成方法についての詳細は、WebSphere MQ 資料を参照してください。

WebSphere Interchange Server のセットアップ

以下の手順は、WebSphere InterChange Server をセットアップして、PIP サンプルのすべてのシナリオを実行するために必要な設定およびリソースを準備する方法を示しています。手順内のステップについての詳細は、WebSphere InterChange Server 資料を参照してください。

1. WebSphere InterChange Server を実行したら、System Manager を始動し、統合コンポーネント・ライブラリー (ICL) を作成します。
2. ICS リポジトリの内容を新規に作成した ICL にインポートします。
3. イニシエーター・サイドでデータベース接続プールを作成します。
 - a. リクエスター用データベースを作成し、BCG_pip_sample_table_creation.sql スクリプトを使用して RNState テーブルを作成します。
 - b. ICL で、データベース接続プール・フォルダーを右クリックし、「**新規データベース接続プールの作成 (Create new Database Connection Pool)**」を選択します。
 - c. データベース、データベース・ドライバー (DB2)、DBConnection 名、ログイン・パスワード、および接続の最大数を指定します。
 - d. 新規接続プール・セクションで、右クリックして「**新規接続プール**」を選択します。
 - e. プール名を CWLDPool と指定し、接続の最小数を 1 に設定します。
 - f. 「**OK**」をクリックし、「**終了 (Finish)**」をクリックしてデータベース接続プールを作成します。
4. レスポンダー・サイドでデータベース接続プールを作成します。
 - a. レスポンダー用に 2 番目のデータベースを作成し、BCG_pip_sample_table_creation.sql スクリプトを使用して RNState テーブルを作成します。
 - b. ICL で、データベース接続プール・フォルダーを右クリックし、「**新規データベース接続プールの作成 (Create new Database Connection Pool)**」を選択します。
 - c. データベース、データベース・ドライバー (DB2)、DBConnection 名、ログイン・パスワード、および接続の最大数を指定します。
 - d. 新規接続プール・セクションで、右クリックして「**新規接続プール**」を選択します。
 - e. プール名を CWLDPool1 と指定し、接続の最小数を 1 に設定します。
 - f. 「**OK**」をクリックし、「**終了 (Finish)**」をクリックしてデータベース接続プールを作成します。
5. コネクターを作成します。
 - a. ICL で、コネクター・フォルダーを右クリックし、「**新規コネクターの作成**」を選択します。

- b. 「Connector Configurator」ウィンドウが表示されます。「新規コネクター」パネルで、「キャンセル」を選択します。
 - c. 「ファイル」 > 「開く」 > 「ファイルから」を選択します。
 - d. 「ファイル・オープン (File Open)」ダイアログで、JMS コネクターのコネクター構成ファイルを選択し、「開く」をクリックします。
 - e. a から d を繰り返して、ポート・コネクターを作成します。
 - f. JMS コネクターを開き、「ファイル」 > 「別名保管」 > 「プロジェクトに保管」を選択します。JMSConnector1 という名前を使用して、JMS コネクターのコピーを保管します。
6. JMS コネクターの構成
- a. ICL で、コネクター・フォルダーを開き、JMS コネクターをダブルクリックします。
 - b. 「Connector Configurator」ウィンドウで、「固有のプロパティ」タブを選択します。
 - c. 以下の属性に対して値を設定します。

表 12.

属性	値
CTX_InitialContextFactory	com.sun.jndi.fscontext.RefFSContextFactory
ReplyToQueue	JMS コネクターがメッセージを書き込むキューの名前
UnsubscribedQueue	CWLD_Unsubscribed
CTX_ProviderURL	JMS コンテキスト・プロバイダーの URL
InProgressQueue	CWLD_InProgress
DataHandlerConfigMO	MO_DataHandler_Default
MessageResponseResultProperty	CWLD_Result
DataHandlerMimeType	添付ファイル
QueueConnectionFactoryName	WebSphere MQ 内に作成されたキュー接続ファクトリー
ErrorQueue	CWLD_Error
InputQueue	JMS コネクターが着信メッセージをポーリングするキューの名前

- d. 「サポートされているビジネス・オブジェクト」タブを選択します。
- e. リストから以下のビジネス・オブジェクトを選択し、それぞれに対してエージェント・サポートを使用可能にします。
 - BCG_Pip3A4PurchaseOrderRequest
 - BCG_Pip3A4PurchaseOrderConfirmation
 - BCG_Pip3C3InvoiceNotification
 - BCG_Pip0A1FailureNotification
 - BCG_EventNotification
 - MO_DataHandler_Default
- f. 「トレース/ログ・ファイル」タブを選択し、ログ・ファイルとトレース・ファイルを構成します。

- g. JMSCConnector1 に対して a から f を繰り返します。
7. MO_DataHandler_Default ビジネス・オブジェクトに添付ファイル属性を追加し、その BO タイプを MO_DataHandler_DefaultAttachmentConfig に設定します。
 8. ポート・コネクタを構成します。
 - a. ICL で、コネクタ・フォルダを開き、ポート・コネクタをダブルクリックします。
 - b. 「Connector Configurator」ウィンドウで、「サポートされているビジネス・オブジェクト」タブを選択します。
 - c. リストから以下のビジネス・オブジェクトを選択し、それぞれに対してエージェント・サポートを使用可能にします。
 - BCG_Pip3A4PurchaseOrderRequest
 - BCG_Pip3A4PurchaseOrderConfirmation
 - BCG_Pip0A1FailureNotification
 - BCG_Pip3C3InvoiceNotification
 - BCG_EventNotification
 - d. 「トレース/ログ・ファイル」タブを選択し、ログ・ファイルとトレース・ファイルを構成します。
 9. コラボレーション・テンプレート・フォルダを右クリックし、「すべてコンパイル」を選択して、コラボレーション・テンプレートをコンパイルします。
 10. コラボレーション・オブジェクトを作成します。
 - a. コラボレーション・オブジェクト・フォルダを右クリックし、「新規コラボレーション・オブジェクトの作成」を選択します。
 - b. テンプレートを選択し、コラボレーション・オブジェクトの名前を指定します。「次へ」をクリックします。
 - c. 以下の表に示す該当するコネクタにポートをバインドします。

表 13. BCG_Pip3A4_Request コラボレーションのポートとコネクタのバインディング

ポート	コネクタ
RequestFromBackend	PortConnector
RequestToWBIC	JMSCConnector
EventToWBIC	JMSCConnector
EventFromBackend	PortConnector
ResponseFromWBIC	JMSCConnector
ResponseToBackend	PortConnector

- d. 「次へ」をクリックします。
- e. E メール通知アドレスを指定し、システム・トレース・レベルを 2 に、コラボレーション・トレース・レベルを 5 にそれぞれ設定します。「次へ」をクリックします。
- f. 以下のコラボレーション・プロパティの値を指定します。使用可能な場合はデフォルト値を使用します。
 - DB_CONN_POOL_NAME

- ATTACHMENT_FILE_DIR

- g. 「終了 (Finish)」をクリックして、コラボレーション・オブジェクトの作成を完了します。
- h. 以下のコラボレーションに対して、a から g を繰り返します。

表 14. *BCG_Pip3A4_Response* コラボレーションのポートとコネクタのバインディング

ポート	コネクタ
RequestFromWBIC	JMSConnector1
RequestToBackend	PortConnector
EventFromBackend	PortConnector
EventFromWBIC	JMSConnector1
ResponseFromBackend	PortConnector
ResponseToWBIC	JMSConnector1

表 15. *BCG_Pip3C3_Notifier* コラボレーションのポートとコネクタのバインディング

ポート	コネクタ
RequestFromBackend	PortConnector
RequestToWBIC	JMSConnector
EventToWBIC	JMSConnector
EventFromBackend	PortConnector

表 16. *BCG_Pip3C3_Receiver* コラボレーションのポートとコネクタのバインディング

ポート	コネクタ
RequestFromWBIC	JMSConnector1
RequestToBackend	PortConnector
EventFromBackend	PortConnector
EventFromWBIC	JMSConnector1

表 17. リクエスターの *BCG_0A1FailureNotification* コラボレーションのポートとコネクタのバインディング

ポート	コネクタ
NOFFFromWBIC	JMSConnector
NOFFToBackend	PortConnector
EventFromWBIC	JMSConnector
EventToBackend	PortConnector

表 18. レスポンダーの *BCG_0A1FailureNotification* コラボレーションのポートとコネクタのバインディング

ポート	コネクタ
NOFFFromWBIC	JMSConnector1
NOFFToBackend	PortConnector
EventFromWBIC	JMSConnector1
EventToBackend	PortConnector

注: OA1 Failure Notification コラボレーション・オブジェクトは 2 つ必要です。1 つはイニシエーター・サイド用、もう 1 つはレスポnder・サイド用です。

イニシエーター・サイドの OA1 コラボレーション: 一方の終端はバイヤーのバックエンド・システムに接続され、もう一方の終端は WebSphere BI アダプター (JMS Connector など) を介して Business Integration Connect に接続されます。

受信側/レスポnder・サイドの OA1 コラボレーション: 一方の終端は受信側のバックエンド・システムに接続され、もう一方の終端は WebSphere BI アダプター (JMS Connector1 など) を介して Business Integration Connect に接続されます。プロパティー DB_CONN_POOL_NAME の値を CWLDPool11 に変更してください。

11. ICL を ICS リポジトリに配置します。
 - a. ユーザー・プロジェクト・フォルダーを開きます。
 - b. InterChange Server プロジェクトを右クリックし、「新規ユーザー・プロジェクト」を選択します。
 - c. プロジェクトの名前を入力します。
 - d. 「使用可能な統合コンポーネント・ライブラリー」ドロップダウン・リストから、作成した ICL を選択します。
 - e. 「完了」をクリックします。これで、プロジェクトが ICL に関連付けられます。
 - f. InterChange Server で、ICS サーバーに接続します。
 - g. サーバー名を右クリックし、「ユーザー・プロジェクトを追加」を選択します。作成したプロジェクトを選択します。
 - h. サーバー名を右クリックし、「プロジェクトを配置」を選択します。
 - i. プロジェクト全体を選択し、「次へ」をクリックします。
 - j. 「次へ」をクリックします。
 - k. プロジェクトのフォルダーを選択し、「終了 (Finish)」をクリックします。これで、プロジェクトがサーバーに配置されます。
12. InterChange Server を再始動します。
13. DB2 コマンド・ウィンドウで、DB2 作成スクリプト (db2RNtable_create.sql) を実行します。
14. スクリプトによって RNState テーブルが作成されたことを確認します。
15. JMS アダプターを始動します。JMS キューが正しく構成されたことを確認します。詳細については、アダプターの構成ガイドを参照してください。
16. Monitor.exe を始動し、コラボレーションとコネクターがアクティブであることを確認します。

シナリオ 1 の実行

シナリオ 1 を実行するには、以下の手順を実行します。

1. VT コネクターを始動し、ポート・コネクターのプロファイルを定義します。「ファイル」 > 「エージェントの接続」を選択して、エージェントのシミュレーターを開始します。

2. サンプル 3A4 要求オブジェクト (PIP3A4Request.bo) をロードし、テスト BO の以下のフィールドを更新します。
 - JMSDynMO-> JMSProperties の下の x_aux_sender_id (これは、送信側のビジネス ID です。例えば、システム B の WBI-C パートナー・プロファイルとして構成されたコミュニティー・マネージャー。)
 - JMSDynMO-> JMSProperties の下の x_aux_receiver_id (これは、受信側のビジネス ID です。例えば、システム B の WBI-C パートナー・プロファイルとして構成されたコミュニティー参加者。)
 - ROOT の下の thisDocumentIdentifier (これは固有 ID です。)
 - JMSDynMO の下の OutputQueue (これは、システム B の WBI-C にメッセージを送信するよう構成されたキューです。システム B の WBI-C で、「ハブ管理 (Hub Admin)」 > 「ハブ構成 (Hub configuration)」 > 「ターゲット (Targets)」の「JMS ターゲット (JMS Target)」を参照してください。)

JMSDynMO の下のプロパティについての詳細は、「*Integration Overview*」ガイドを参照してください。

3. それを非同期モードで送信します。
4. ログ・ビューアーを開き、InterChange Server トレース・ファイルをロードします。以下のテキストを検索します。

```
Collaboration Success: Collaboration Name {The collaboration name}, Scenario Name SendRequest, BLOCK Name SendBO.
```

これは、3A4 要求が JMS Connector に正常に送信されたことを表します。

5. バイヤー・サイドの Business Integration Connect が 3A4 要求を受け取り、それをセラーのゲートウェイとして構成された Business Integration Connect インスタンスに送信したかどうかを確認します。
6. ポート・コネクタが 3A4 要求メッセージを受け取ります。これは、セラーのバックエンド・プロセスの 3A4 要求です。要求を選択し、「正常に応答」をクリックします。
7. 3A4 要求オブジェクト (PIP3A4Response.bo) をロードし、テスト BO の以下のフィールドを更新します。
 - JMSDynMO-> JMSProperties の下の x_aux_sender_id (これは、システム C の WBI-C パートナー・プロファイルとして構成された、送信側のビジネス ID です。)
 - JMSDynMO-> JMSProperties の下の x_aux_receiver_id (これは、受信側のビジネス ID です。例えば、システム C の WBI-C パートナー・プロファイルとして構成されたコミュニティー参加者。)
 - ROOT の下の requestingDocumentIdentifier (これは、受信した要求の「thisDocumentIdentifier」と同じです。)
 - ROOT の下の thisDocumentIdentifier (これは固有 ID です。)
 - JMSDynMO の下の OutputQueue (これは、システム C の WBI-C にメッセージを送信するよう構成されたキューです。システム C の WBI-C で、「ハブ管理 (Hub Admin)」 > 「ハブ構成 (Hub configuration)」 > 「ターゲット (Targets)」の「JMS ターゲット (JMS Target)」を参照してください。)

JMSDynMO の下のプロパティについての詳細は、「*Integration Overview*」ガイドを参照してください。

- それを非同期モードで送信します。
- ログ・ビューアーを開き、InterChange Server トレース・ファイルをロードします。以下のテキストを検索します。

Collaboration Success: Collaboration Name {The collaboration name}, Scenario Name SendResponse, BLOCK Name SendBO.

ポート・コネクタが 3A4 応答メッセージを受け取ります。これは、バイヤーのバックエンド・プロセスの 3A4 応答です。応答を選択し、「正常に応答」をクリックします。

シナリオ 2 の実行

シナリオ 2 を実行するには、シナリオ 1 を実行してから、以下の手順を実行します。

- PIP3A4Cancel.bo をロードし、テスト BO の以下のフィールドを更新します。
 - JMSDynMO-> JMSProperties の下の x_aux_sender_id (これは、システム B の WBI-C パートナー・プロファイルとして構成された、送信側のビジネス ID です。)
 - JMSDynMO-> JMSProperties の下の x_aux_receiver_id (これは、受信側のビジネス ID です。例えば、システム B の WBI-C パートナー・プロファイルとして構成されたコミュニティー参加者。)
 - ROOT の下の EventMessageID (これは固有 ID です。)
 - ROOT の下の BusinessObjectID (これは、送信した要求の「thisDocumentIdentifier」と同じです。)
 - ROOT の下の GlobalMessageID (これは、送信した要求の「x_aux_msg_id」と同じです。)
 - JMSDynMO-> JMSProperties の下の x_aux_process_instance_id (これは、送信した JMSDynMO-> JMSProperties の下の要求の「x_aux_process_instance_id」と同じです。)
 - ROOT の下の StatusCode および JMSDynMO-> JMSProperties の下の x_aux_event_status_code (例: 800)
 - JMSDynMO の下の OutputQueue (これは、システム B の WBI-C にメッセージを送信するよう構成されたキューです。システム B の WBI-C で、「**ハブ管理 (Hub Admin)**」 > 「**ハブ構成 (Hub configuration)**」 > 「**ターゲット (Targets)**」の「**JMS ターゲット (JMS Target)**」を参照してください。)

JMSDynMO の下のプロパティについての詳細は、「*Integration Overview*」ガイドを参照してください。

- それを非同期モードで送信します。
- ログ・ビューアーを開き、InterChange Server トレース・ファイルをロードします。以下のテキストを検索します。

Collaboration Success: Collaboration Name {The collaboration name}, Scenario Name SendEvent, BLOCK Name SendEvent.

これは、イベント・メッセージが JMS Connector に正常に送信されたことを表します。

- バイヤーの Business Integration Connect インスタンスが、イベント・メッセージを受け取ります。インスタンスは、PIP 0A1 メッセージをセラーのゲートウェイに送信します。
- ポート・コネクターが PIP 0A1 メッセージを受け取ります。

シナリオ 3 の実行

シナリオ 3 を実行するには、以下の手順を実行します。

- VT コネクターを始動し、ポート・コネクターのプロファイルを定義します。「ファイル」 > 「エージェントの接続」を選択して、エージェントのシミュレーションを開始します。
- サンプル 3C3 要求オブジェクト (PIP3C3Request.bo) を、添付の URI、デフォルトの添付 BO、またはその両方とともにロードします。テスト BO の以下のフィールドを更新します。

- JMSDynMO-> JMSProperties の下の x_aux_sender_id (これは、システム B の WBI-C パートナー・プロファイルとして構成された、送信側のビジネス ID です。)
- JMSDynMO-> JMSProperties の下の x_aux_receiver_id (これは、受信側のビジネス ID です。例えば、システム B の WBI-C パートナー・プロファイルとして構成されたコミュニティー参加者。)
- ROOT の下の thisDocumentIdentifier (これは固有 ID です。)
- JMSDynMO の下の OutputQueue (これは、システム B の WBI-C にメッセージを送信するよう構成されたキューです。システム B の WBI-C で、「ハブ管理 (Hub Admin)」 > 「ハブ構成 (Hub configuration)」 > 「ターゲット (Targets)」の「JMS ターゲット (JMS Target)」を参照してください。)

JMSDynMO の下のプロパティについての詳細は、「*Integration Overview*」ガイドを参照してください。

- それを非同期モードで送信します。
- ログ・ビューアーを開き、InterChange Server トレース・ファイルをロードします。以下のテキストを検索します。

```
Collaboration Success: Collaboration Name {The collaboration name}, Scenario Name SendRequest, BLOCK Name SendBO.
```

これは、3C3 要求が JMS Connector に正常に送信されたことを表します。

- バイヤー・サイドの Business Integration Connect インスタンスが 3C3 要求を受け取り、それを取引先 (この場合はセラーのゲートウェイとして構成された Business Integration Connect インスタンス) に送信したかどうかを確認します。
- 3C3 要求メッセージは、レスポンスのゲートウェイおよびセラー・プロセスに到達する必要があります。セラー・サイドのコラボレーションは添付ファイルをデコードし、コラボレーション・プロパティに指定したファイルにそれを書き込みます。この URI はビジネス・オブジェクトに設定され、バックエンドに送信されます。

7. ポート・コネクタが 3C3 要求メッセージを受け取ります。これは、セラーのバックエンド・プロセスの 3C3 要求です。要求を選択し、「正常に応答」をクリックします。

特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Burlingame Laboratory Director

IBM Burlingame Laboratory
577 Airport Blvd., Suite 800
Burlingame, CA 94010
U.S.A

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

著作権使用許諾

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

Websphere Business Integration Connect には、ICU4J というコードが含まれています。ICU4J のコードは、IBM の「プログラムのご使用条件」に基づきその「適用除外コンポーネント」の条項に従うことを条件に使用許諾されます。ただし、IBM は以下の条項を明示することを義務付けられています。

著作権および許可に関する注意事項

本「プログラム」は、IBM 社およびその他の著作権により保護されています。
Copyright (c) 1995-2003

All rights reserved.

このソフトウェアおよびその関連文書ファイル (以下「ソフトウェア」といいます) を取得する人には、この「ソフトウェア」の、使用、複製、変更、結合、出版、配布またはソフトウェアの複製を販売する権利を含め、制約なく取引する権利を無償で許可し、また、「ソフトウェア」を与えられた人にも、この権利が与えられます。ただし、上記の著作権表示およびこの許可通知が、すべてのこの「ソフトウェア」の複製に記載され、また上記の著作権表示およびこの許可通知が、関連文書に記載されている場合に限りです。

ソフトウェアは、特定物として現存するままの状態を提供され、第三者の権利の侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含む、すべての明示もしくは黙示の保証責任または保証条件を負わないものとします。さらに、著作権者またはこの注意事項に含まれている権利の所有者は、このソフトウェアの使用または実行に起因するものであれ、関連するものであれ、契約、過失、不法行為のいずれによるものであれ、使用、データまたは利益の喪失から発生する請求、あるいは特別、直接的、間接的、結果的損害、または他の一切の損害について、何等の責任も負いません。

この通知に記されているもの、および事前の書面による承認がある場合を除き、著作権者の名前を、このソフトウェアの広告、または販売、使用、取引の促進のためにご使用になることはできません。

プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報は、プログラムを使用してアプリケーション・ソフトウェアを作成する際に役立ちます。

一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様はこのプログラム・ツール・サービスを含むアプリケーション・ソフトウェアを書くことができます。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

警告: 診断、修正、調整情報は、変更される場合がありますので、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM

IBM ロゴ

AIX

CrossWorlds

DB2
DB2 Universal Database
Lotus
Lotus Domino
Lotus Notes
MQIntegrator
MQSeries
Tivoli
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

MMX、Pentium および ProShare は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



WebSphere Integration Connect Enterprise and Advanced Edition バージョン 4.2.2



Printed in Japan